第２９回 定時総会次第

2018年4月21日
於：コミュニティリゾート リライム

第１部

■ 定時総会（１６：００～１７：３０）

・開会宣言
・代表理事挨拶
・来賓挨拶　　祝電／メッセージ披露
・議長選出
・議事開始

第１号議案	１７年度活動報告	
第２号議案	１７年度収支決算報告	会計監査報告
第３号議案	１８年度役員（案）	
第４号議案	１８年度活動方針（案）	
第５号議案	１８年度予算（案）	

・議長退任
・閉会宣言

第２部

■ 記念講演（１７：４０～１８：５０）

演題　終わりなき挑戦
～小麦粉から胃を取り戻せ～

講　師　義元　孝司氏
株式会社アジチファーム　会長

第３部

■ 懇親会（１９：００～２０：３０）

第1号議案

2017年度 活動報告

はじめに

2017年度福井県内では、中部縦貫道の大野までが全線開通、北陸新幹線の敦賀以西ルートが決定、福井のブランド米として「いちほまれ」を発表するなど、うれしいニュースがたくさんありました。

世界に目を向けてみますと、北朝鮮のミサイル問題やアメリカのトランプ大統領等、予断の許さない状況が続いているものの、経済は総じて堅調さを維持してきたようです。

日本経済おいては、景気回復がいざなぎ景気を超え戦後最長になり、株価は一時バブル後最高の24,000円を付けるなど、全体的にはやや好転してきました。

なんといっても、北陸で初めて「拡大している」という言葉が使われました。

人材不足等の諸問題はあるものの、世界、日本、北陸、福井と全体的に経済的にはよい年であったと思われます。

福井同友会の活動

2017年度の活動は初めての合同入社式でスタートしました。テレビ・新聞にも取り上げていただきましたし、何よりも新入社員の皆様が大変喜んでいました。

そして、継続して行っている共同求人や社員共育大学などが充実してきています。経営指針づくりも、毎年形を変えながら、会員の皆様にとって意義のあるものとなっております。参加者からの評価も素晴らしく高いものになっております。

あと2年後に迫ってきた福井同友会30周年に向けて300名会勢を目指し、一部の会員だけでなく、会員みんなで力を合わせて、福井同友会がそして会員企業が発展成長する年にしていきましょう。

【組織づくり委員会】

300 名会勢に向け、委員会全体で行動しましたが、ほぼ現状維持に留まりました。

その原因としては、委員会だけではなく、会員全体の増員に対する意識が薄すぎるのが、最大の理由です。

今後は、同友会の将来的な姿を見つめ、徹底した増員活動を行動していきたいと考えています。

各委員長／部会長や理事の皆さまは、「役を受けた以上は、率先して会の活性化に協力する」という強い気持ちで行動いただけることを期待いたします。

我々の手で、意義を感じ、感じられるランチ会にしていくことで、まず 30 人に会員になって頂きましょう！

【例会委員会】

2017 年度福井同友会活動方針に基づき、例会委員会として活動のスリム化を目指しました。

全県行事として月 2 回に各委員会の活動を集約するよう計画し年間を通して実行しました。各委員会の活動内容が見えづらく、そのため内容が重複して行われていることにより、運営に携わる人が疲弊しているとの意見が多くあったためです。

初めての試みでしたが、期首から準備期間の短かった 6 月前半、県立大学との折衝がうまく進まなかった 12 月後半の 2 回以外はほぼ計画通り実行できました。各委員会の委員長を中心に会員の皆さまに多大なるご協力をいただいたおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。

しかし、前年の参加人数を増やす取り組みの一つであった例会の月曜日開催が徹底されなかった、担当分けした例会委員が打ち合わせに参加しなかった、内容を充実させる取り組みが不十分だった、毎回の参加人数が少なかったなど、反省すべき点が多々ありました。

2017 年度の反省点を元に、2018 年度も会員の皆さまが学べる場の充実をはかり、会員増強につながるよう活動していきます。

【経営労働委員会】

中期ビジョンの「経営指針（経営理念、経営方針、経営計画）100%作成を目指して」、今期は計画にあった①会員および他県の会員による、経営指針成文化による成功体験報告と、③経営理念作成講座の開催を中心に活動しました。

6 月 27 日に開催した全県行事・6 月例会での愛知同友会の出分氏の報告で、参加者およびゲストの反応は、「参加して本当によかった」「何故、経営指針が必要なのか分かりやすかった」と上々の反応。またアンケートの集計結果では、『満足、やや満足で合計 95%』の評価でした。その後、石川の経営指針講座の見学や他県の講座内容の検討し、『同友会らしい講座』、『福井同友会に根付く講座』を委員会で議論を重ね、今期はまず『経営理念成文化講座』の開催を決定。石川同友会の会員に共学者として参加を依頼し、4 講とも土曜日 1 日かけてディスカッション形式の講座を行いました。参加した 8 名は毎回熱い議論を交わし、「参加して良かった」「理念は成文化していたが、見直すきっかけとなった」「今後の事業発展に繋がる」との高い評価でした。来期に開催予定の「経営指針成文化講座」の成功、成文化し実践したことによって、会員企業の強い企業づくり（自社が変化した・良くなった）と実感できる、期待できるものでした。但し、今期は「企業変革支援プログラム」を取り組めなかったことや、働き方や労働問題に対応する必要性があるこ

とが今後の課題となっています。
最後に今期の委員会は青年部会との連携もあり、活発な委員会活動になりつつあると感じます。この勢いを今後の委員会や福井同友会の発展、そして会員の企業成長に繋がればと考えます。

【社員共育委員会】
社員共育委員会では合同入社式、共同求人、社員共育大学、を順次開催し、同友会メンバーに経営者と社員が共に学ぶ研修の機会、また、求人から採用、入社といった、企業にとって重要なポイントを共に確認し、推進して戴くための機会を提供させていただきました。

● 合同入社式
2017年4月1日（土）国際交流会館多目的ホールにて実施しました。
13社29名の新入社員の皆様にご参加戴きました。
入社式式典、記念撮影、ダスキン福井株式会社代表取締役八木信人会員による記念講話、昼食会、研修という流れで実施しました。
また、2018年度合同入社式は3月31日（土）を予定し、開催準備を行いました。

● 共同求人
共同求人は売り手市場への変化を更に加速させた1年となりました。大学への共同求人も一昨年同様、福井工業大学1校への開催となりました。参加企業9社で計3回の説明会を実施し、いずれの会も、10名以上の学生が参加してくださいました。参加企業の内3社で計4名のH30年度新卒採用が決まりました。

● 社員共育大学
シナジー経営株式会社代表取締役の北出慎吾会員を講師に迎え、9月26日(火)、10月24日(火)、11月28日（火）の3日間、各々3時間、計3回の研修を開催させて戴きました。
第1講　基礎研修：キャリアアップを目指す
　　対象者：経営者・経営幹部・リーダー社員・一般社員　（参加者48名）
第2講　リーダー研修：仕事ができるリーダーとは
　　対象者：経営者・経営幹部・リーダー社員・一般社員　（参加者43名）
第3講　幹部研修：組織を引っ張るリーダーの考え方
　　対象者：経営者・経営幹部　（参加者28名）
と階層別の内容構成となっており、各回、ご参加の会員経営者、管理者、会員企業の一般社員の皆様に、ご好評を戴きました。

【政策委員会】
1. 中小企業憲章の取り組み
11月に第33回中小企業憲章・条例推進本部・政策委員会合同会議に参加しまして、他同友会の中小企業憲章・条例推進運動などの取り組み・活動を聞き、中小企業憲章（運動）の目指しているものは、「地域で頑張っている中小企業の経済的かつ社会的約割が正当に評価される社会」を

実現すること、中小企業に光を、中小企業こそ光と言うことを強く感じました。
また、政策委員会が取り組もうとしている、地域大学との連携事業は大事な事業であることも再認識しました。

2. 学校、地域団体との情報交換及び連携
2017年度は「地域大学の学生に、ほとんど県内の中小企業の実態・状況などが知られていないのではないか」という視点から、委員会として県立大学学生とのコミュニケーションの場作りについて検討し、大学側と何回か協議しました。そして、2年生を対象としたコミュニケーションの場を2018年の5～6月ごろの開催予定として計画しています。

【広報委員会】
広報の方法を印刷媒体からWEB中心に移行しました。印刷媒体による会報紙は今年1回発行。来年からはWEBに全面移行します。今年度、HPをリニューアル完成の予定でしたが、掲載内容の検討や作業内容の変更などにより、完成と公開は来年度にずれ込むことになりました。
WEBによる同友会活動の広報のため、各委員会・部会等からの原稿提出の方法を見直し、フォーマット化。理事会の場で原稿提出状況を発表。提出を促しました。
SNSを使った、新しい交流拠点の構築については、会内において利用需要がなく、新規拠点の構築は見送りました。また、FB利用度アップについても、すでに意識のある会員は利用しており、拡大のための作業については意味をなさないためこれ以上の動きは行っていません。
昨年度より進めている、FBグループ「福井の個人事業主を応援する会」では、同友会未加入の方にも開放して、情報を提供。一部の会員だけが積極的に情報提供を行っており、周りからの援護射撃的な応援がまだまだ必要と思われます。
HPによるオフィシャルな事業報告やFBによるオープンな情報公開によって、これまでにない手段による同友会活動の告知活動が行われ始めました。来年度は、この動きが実際に目に見える形になっていくものと思われます。

【丹南支部】
丹南支部中期ビジョンに2020年度には50名の支部会員数を目標にスタートし、2017年度の期首35名から、最低でも40名を目指しました。その結果は7名の新入会員を確保しましたが、残念ながら2名の退会者が出て、何とか最低限の40名を達成して終えることとなりました。42名に設定していた努力目標に達しなかった分は、次年度にかけていきたいと期待するものです。
事業に関しては、県の事業も含めて月1回は支部事業の開催を目指して行いました。ただ出席人数が期待したほどには集まらず、またいつもの顔ぶれの出席となっていることが残念に思います。出席率が30%に満たないということは、会員のニーズに合っていないのか、日程が合わないのか、あるいは会に対して無関心なのか、今一度見直す必要があるのかもしれません。この同友会は、学びあうことによって経営者としての質の向上が図られ、集い合うことによって人間関係が広がり、それがビジネスチャンスにもつながります。この会を最大限に活用するために積極的な例会参加をしていただきたいと考えます。

実現すること、中小企業に光を、中小企業こそ光と言うことを強く感じました。
また、政策委員会が取り組もうとしている、地域大学との連携事業は大事な事業であることも再認識しました。

2. 学校、地域団体との情報交換及び連携
2017年度は「地域大学の学生に、ほとんど県内の中小企業の実態・状況などが知られていないのではないか」という視点から、委員会として県立大学学生とのコミュニケーションの場作りについて検討し、大学側と何回か協議しました。そして、2年生を対象としたコミュニケーションの場を2018年の5～6月ごろの開催予定として計画しています。

【広報委員会】
広報の方法を印刷媒体からWEB中心に移行しました。印刷媒体による会報紙は今年1回発行。来年からはWEBに全面移行します。今年度、HPをリニューアル完成の予定でしたが、掲載内容の検討や作業内容の変更などにより、完成と公開は来年度にずれ込むことになりました。
WEBによる同友会活動の広報のため、各委員会・部会等からの原稿提出の方法を見直し、フォーマット化。理事会の場で原稿提出状況を発表。提出を促しました。
SNSを使った、新しい交流拠点の構築については、会内において利用需要がなく、新規拠点の構築は見送りました。また、FB利用度アップについても、すでに意識のある会員は利用しており、拡大のための作業については意味をなさないためこれ以上の動きは行っていません。
昨年度より進めている、FBグループ「福井の個人事業主を応援する会」では、同友会未加入の方にも開放して、情報を提供。一部の会員だけが積極的に情報提供を行っており、周りからの援護射撃的な応援がまだまだ必要と思われます。
HPによるオフィシャルな事業報告やFBによるオープンな情報公開によって、これまでにない手段による同友会活動の告知活動が行われ始めました。来年度は、この動きが実際に目に見える形になっていくものと思われます。

【丹南支部】
丹南支部中期ビジョンに2020年度には50名の支部会員数を目標にスタートし、2017年度の期首35名から、最低でも40名を目指しました。その結果は7名の新入会員を確保しましたが、残念ながら2名の退会者が出て、何とか最低限の40名を達成して終えることとなりました。42名に設定していた努力目標に達しなかった分は、次年度にかけていきたいと期待するものです。
事業に関しては、県の事業も含めて月1回は支部事業の開催を目指して行いました。ただ出席人数が期待したほどには集まらず、またいつもの顔ぶれの出席となっていることが残念に思います。出席率が30%に満たないということは、会員のニーズに合っていないのか、日程が合わないのか、あるいは会に対して無関心なのか、今一度見直す必要があるのかもしれません。この同友会は、学びあうことによって経営者としての質の向上が図られ、集い合うことによって人間関係が広がり、それがビジネスチャンスにもつながります。この会を最大限に活用するために積極的な例会参加をしていただきたいと考えます。

た。加えまして、8月18日の全県行事・8月例会＆夏の納涼祭に地球環境部会の担当として、東京から東京芸術大学非常勤講師、千葉大学非常勤講師、専門学校 ICS カレッジオブアーツ学長の丸谷博男氏をお招きして、「eco から健康へ、健康から本物の家作りへ」と題して講演を行い、ゲストを含めて41名の参加者に参加拝聴していただきました。

【障がい者問題部会】

国内の少子高齢化社会問題などで若者の生産人口がますます減少化、我々中小企業では仕事が在っても働く人が不足する様な深刻な事態が想定される時代になりました。

一昨年の松山での勉強会、そして昨年の第19回障害者問題全国交流会（10/19～20、広島）に参加し、実際にどの様な仕事現場で働いているかを企業視察しましたが、製造工場（縫製、鉄工所）や販売所などで元気に活躍をされて、経営者も従業員も互いに喜びを共有していました。

この様な身体、知的、精神などの障がい者は多く存在しており、今回の視察では、求人難の対処法としても大いに活用されていました。

我々中小企業も国や県の支援を大いに活用し、雇用の支援と企業の発展を目指す時代に来たのではないでしょうか！皆さまの参加と活用を期待します。

第３号議案

2018年度 役員（案）

【理事】

1	市橋　啓一	(株)末広漆器製作所	代表取締役社長	再
2	内田　光紀	(有)けんこーや	代表取締役	再
3	大澤　義人	大澤義人税理士社労士事務所	代表	再
4	奥村　高志	(株)オクタケ	代表取締役	再
5	賀川　泰成	(株)グロウプス	代表取締役	再
6	小玉　紘平	(株)センレイ	代表取締役	新
7	塩谷　昭文	(株)明光建商	代表取締役会長	再
8	田中　英孝	田中会計・労務総合事務所	代表	再
9	西澤　昌毅	キャラバン	代表	再
10	福島　実	(株)ホクサン理商	代表取締役	再
11	古市　恭也	フリックイン福井(株)	代表取締役	再
12	水島　正芳	北陸トラック運送(株)	代表取締役社長	再
13	村田　隆行	(株)マスターピース	代表取締役	新
14	山内　喜代美	(株)ドリームワークス	代表取締役	再
15	山内　みづえ	エフケーユーテクニカル(株)	代表取締役	再
16	山口　浩児	全日本メンタルカウンセラー協会	理事長	再
17	鷲田　文枝	ワークマン　武生店	副店長	再

【会計監査】

1	長谷川　範彦	長谷川造園(株)	代表取締役	新
2	山崎　雅由樹	山崎総合事務所	登記部部長	新

第４号議案

2018年度 活動方針（案）

１．会員増強（目標270名）

２．会員同士の絆を深める

３．内外への広報活動強化

企業づくりについては……

・経営指針成文化の実践で、成果の出せる企業づくりをしよう

・企業変革支援プログラムの活用を推進しよう

・まず労働環境の整備を。「働く環境の指針づくり」をしよう

・採用と教育を一体として、強い体質の企業づくりをしよう

地域づくり、経営環境改善については……

・元気な地域をつくる連携を広げよう

・教育機関との連携をすすめ、中小企業の真の姿を地域に伝えよう

・「金融仲介機能のベンチマーク」をもとに、金融機関と対話をすすめよう

同友会づくりについては……

・組織強化と会員増強。仲間づくりの輪を広げ、増やす力をつけよう

・丁寧な例会づくりとグループ討論をしよう

・オリエンテーションやフォローアップ活動の展開をしよう

【会員増強委員会】
中期ビジョンの達成に向けて、下記の事項に取り組みます。

＜基本姿勢＞：中長期思考
■活動の納得・理解
まず何のために増員するのかを委員会メンバー全員で理解、納得することに尽力いたします。
結果自然発生的に紹介が生まれると考えます。

＜増員＞：短期思考
■ランチ会の毎月開催
各委員会にご協力いただきながら、全体で会員増員に向けて取り組みます。
増強委員会は責任をもってランチ会全体の管理を行います。
■新会員の入会を図る各種勉強会、例会の開催
・経営者に刺さる勉強会を開催致します
（分かりやすいランチェスター戦略、決算書の読み方など）
・例会委員会と協力してキャッチーなパネルディスカッションを開催
（優秀な方にパネラーとしてご登壇いただく）
■新会員向けチラシの作成
広報委員会と協力して、もっと同友会を理解しやすくなるようなチラシを作成し、入会率の向上に努めます（同友会の概要や特徴、組織図、会員の声など）

＜強化＞：中長期思考
■退会率を減らす新たな施策
① バディー制度の立案
入会してすぐに活動されなくなる方が一定層いることから、紹介者と非紹介者によるバディーを組んでいただき、ある程度の期間フォローする体制を構築します。
② 入会後の質疑応答・話し合い
新入会員向けに同友会の理解を早める為に（今後どのような活動をすればよいのか、や指針書の説明など）質疑応答や簡易的な話し合いの場を新たに設けます。
※紹介 → 入会 → オリエンテーション → 質疑応答 → 各委員会、部会活動
■イベントの開催
会員同士の横の繋がりを増やすため、夏の合同イベントや、異業種交流サロン、
海外への企業訪問研修旅行などを試みます（ゲスト参加も歓迎）
■増強できる仕組み化
勢いだけの増員や強化ではなく、継続的に維持・発展できる増強の仕組みを作ります。
（マニュアル化、年間計画フォーマット、ルール作り、todo リスト、アイディアリストなど）

【例会委員会】
福井同友会として定着した行事を盛り込みつつ、丁寧な例会づくりを心がけます。
8 月に会員増強委員会とのコラボ企画で講演会を予定しています。たくさんの会員の皆さまに

ゲストを連れて参加していただけるよう構築していきます。また、同友会らしい経営報告を聞いてからのグループ討論も昨年並みの4回計画しています。

2018年度も各委員会の皆さまに協力していただきながら取り組みますので、よろしくお願いします。

≪年間の予定≫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
企画（担当）			経営報告		講演会（会員増強）	
定例行事（担当）	合同入社式（社員共育） 定時総会（実行委員会）		合同企業説明会（社員共育）			社員共育大学（社員共育）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画（担当）	経営報告		経営報告		経営報告	
定例行事（担当）	社員共育大学（社員共育）	企業訪問研修（女性部会） 社員共育大学（社員共育）		賀詞交歓会（例会）		

【経営労働委員会】

中期ビジョンにもとづき、次の事項に重点的に取り組みます。

① 経営指針成文化率の向上
・2017年度に行った経営理念成文化講座の続きで、方針・計画・発表を行います。
・2018年度に改めて募集を行い、経営指針成文化講座を行います。
・経営指針に関する例会を通じて、経営指針の素晴らしさを広め、成文化率向上をはかります。
② 経営理念成文化率の向上
・経営指針成文化講座を通じて経営理念の成文化率向上を図ります。
・経営指針に関する例会を通じて、経営指針の素晴らしさを広め、成文化率向上をはかります。
③ 中同協e.doyu企業変革支援プログラム登録数の増加
・経営指針成文化講座受講メンバーに登録を促し、増加に結び付けます。
④ 対等な労使関係の実現に向けた就業規則のありかたについての学び
・例会又は例会前の勉強会等で、委員会メンバーを中心に勉強を行い、それを委員会メンバーで共有することで、2019年度へ繋げます。

【社員共育委員会】

中期ビジョンを実現するため、2018年度は、以下の活動に取り組んで参ります。

同友会会員企業へ入社して企業人としての第一歩を踏み出し、企業人として研鑽を積み成長し、経営者と共に企業人として企業の成長と地域社会に貢献していくために、企業人としての入り口（共同求人～合同入社式）から研鑽の場（新入社員研修～階層別研修）までを一貫して提供する仕組みづくりを行い、福井同友会における魅力あるコンテンツとして確立して参ります。

委員会において、新入社員研修、階層別研修のニーズ、内容について継続して研究する時間を定期的に設けます。

また、会員企業の求人採用活動への支援の一環として、県内大学のみならず、専門学校、高等学校の就職支援部門との連携を図る準備を致します。

会員の皆様の積極的なご参加ご支援をお願いいたします。

【政策委員会】

2018 年度は地域との連携を課題として委員会の活動方針としたい。

1. 福井県立大学・学生との情報交換の場所作り
   - ・地元の中小企業として大学・学生に、大学卒業後も福井で（就職、起業等を含めた）生活をする魅力を伝えること。
   - ・学生の視点から、現在の福井や福井の中小企業についてどう思っているか、卒業後も福井に残るには何が必要か等、小グループによる話し合いで生の意見を聞かせて貰う、そんな場を作る。
2. 中小企業憲章・条例の推進
   - ・中小企業憲章や条例を行政担当者と学び、条例等の制定推進に取り組む。
3. その他
   - ・同友会理念に基づく経営課題を、専門家を中心とした勉強会等を開催する。

【広報委員会】

広報中期ビジョンにある会勢 300 名を実現するために、会の内外に同友会の活動を広く広報し、その良さを伝えることでの会勢拡大に寄与する。

広報活動を行うにあたり、

① 情報の収集
② 情報の整理
③ 情報の発信
④ 情報発信の効果

これを会員、特に理事にはご理解をいただいて効率的な広報活動としたいと思います。

●紙媒体の廃止と WEB 全面切り替え

今年度より、紙媒体の会報紙は廃止。今後は全て WEB に切り替えます。

●情報の収集について

これまで進めてきた事業報告書の提出を確実なものとしていきます。これまで通り、未提出者については提出を依頼します。

原稿内容については、担当者しかわかり得ない事業への思いや情熱をぜひともお願いしたい。広報委員会で出来ることは、原稿が出てきたあとにどうするかという事であり、事業の中味をしっかりとだしてもらうことが広報活動の原点になります。

●情報の整理と発信について

集まった情報をもとに、広報委員会と事務局が中心になって行います。

●情報発信の効果について

福井同友会の活動が活性化され、会勢が伸びるためには、自分たちの行っている活動内容がいかに情熱的で、深い思い入れがあるかを伝えることです。

広報委員会としては、会勢拡大については正攻法で攻めていきたい。つまり、個人的なつながりに頼るのではなく、活動内容そのものに興味を持ってもらい、共感を得て入会するという流れを作ることこそが、広報委員会の使命だと考えます。

●昨年度の活動方針の変更について

昨年予定していた Facebook 加入率アップの方針は撤回。但し、FB での連絡網作りは続けていく。

●HP への導入のための SNS の会員各自の利用

HP の告知のために Facebook やインスタグラム、LINE 等の SNS は会員各自の利用の中で、HP への導入として積極的に連携をお願いしたい。例えば、理事が原稿を出したあと、そのあとで HP にアップされたときには、委員会のメンバーが、その記事のリンクを各自の SNS アカウントでシェアするというようなことです。

●広報内容

委員会活動、部会活動、支部活動、地域的な活動、対外的な交流活動、全国大会等への参加報告、マスコミ等への露出、他団体との連携、会員の動静、会員企業の PR など。

●昨年度から始めた「福井の個人事業主を応援する会（FB 公開グループ）」については、利用が少なくなっているので、多くの会員に利用を働きかけて、あたらしい企業家の掘り起こしに繋げたい。

【丹南支部】

≪目的≫　中小企業の発展が、広義的に社会貢献に繋がるという理念の基、中小企業経営者の学び・情報共有・連帯の場として、ひいては丹南地域の地方創生に寄与でき得る活動を目指すものとする。

≪活動内容≫

1. 学びと実践の活動

会員同志の学びあい、知り会い、繋がり合う事という主旨の基、

① 例会の実施（基本は毎月開催）

・会員の自己・商品紹介プレゼンを中心とした、通常例会（グループ討論有）

・個人ではなかなか行えない国内・外の企業訪問（異業種交流活動）の実施

・会員同志の更なる交流を深める、バーベキューや忘年会等の親睦活動

② 全県行事をはじめ、専門委員会活動（経営指針成文化・共同求人・合同入社式・社員共育など）の積極的参加

2. 仲間作りの活動

2年後の福井同友会30周年に向け、支部会勢50名を展望する会員増強の主旨の基、

・本年度は支部会勢43名を必達目標とする

・例会をはじめ、あらゆる企画に、地域の経営者のゲスト参加の呼びかけの実施

・地域で確かな評価を受ける経営者に、入会を働きかける

・新会員にも協力を求め、支部活動の担い手作りを進める

・「仲間作り一斉行動日」を設け、集中的に活動する機会を作る

・会員訪問を日常的に進め、各会員企業の経営状況の把握や要望・意見をくみ取る

・積極的に新会員を小グループ活動に誘い、丹南支部独自の歓迎会などを実施する

3. 総括として

上記、1と2の質を向上していく事で、会員の満足度を、更に高める事により、“会員による会員の為の支部会作りを目指す”ものとする！

【敦賀ブロック】

① 2018年度も引続き会員拡充を重点課題として取り組んで行きます。

② 毎月ランチ会を開催し、会員間の情報交換や会員拡充方策検討をしていきます。

【青年部会】

≪活動の基本姿勢≫

同友会活動の目的と共に、青年部会の『Vision』『Mission』を目指します。

（定着を図るために、例会、ミーティングの前に唱和をします）

『Vision』

熱く！強く！　～挑み続けるリーダーへ～

成長を加速させる鍛錬の場「福井青年部」

『Mission』

1. 自主的参加！仲間の体験を自分の学びに

2. 知識から行動へ！学んだことは即実践
3. 本音で語る！刺激し合う仲間づくり

≪具体的活動方針≫

1. 経営指針の成文化を通して、会員同士の理解を深め相談しあえる仲間を作ります
   ・経営労働委員会が中心となる経営指針成文化講座に青年部会からも積極的に参加します
   ・経営指針成文化講座に参加するメンバーは基本的に経営労働委員会に所属します
2. 経営指針を成文化し、実践、評価、改善することで各社の発展に努めます
   ・前年度、経営指針成文化講座に参加したメンバーは、本年度の経営指針成文化講座に共学者として積極的に参加します
3. 同友会全体の増強を目指します
   ・中期ビジョンの目標（2020 年に 50 名）達成のため、青年部会員の増強を目指します
   ・本会、各種委員会とも連携します
   ・積極的にゲストに声をかけます
4. 強靭な組織づくり（同友会全体）に努めます
   ・現状では本会と青年部会のかかわりが少ないので、本会の例会に積極的に参加します
   ・青年部会員も各種委員会に所属もしくは参加して、積極的にかかわりをもちます
5. 学びある例会を開催し、各社、個人の発展に繋げます
   ・青年部会でも例会委員会をつくり、本会の例会委員会とも連携し、質の高い例会づくりを目指します
   ・他県から報告者を招き学びある例会をします
6. 青年部会全員が本気本音でかかわり同友会＆自社の発展に繋げます
   ・青年部会全員が自社の成長に努めます
   ・青年部会全員に何らかの役をつけます（青年部会でも委員会をつくり所属する）
7. 情報交換も含め、積極的に県外ミッションへ参加します
   ・北陸三県合同例会、青全交、その他合同例会に参加します

【女性部会】

～女性の立場からの広い視点と高い視点での学び合いを深める～

・働き方改革を意識した研修など交流を通じ経営者としての資質を高める。
・女性の力を生かした仕事づくり、地域づくりを深めていく。
・30 周年にむけて女性部会の増員を目指す。
・女性リーダーの育成に努める。
・各部会／各委員会との交流を充実させていく。

年間予定

① 女性経営者全国交流会への参加　6/21～22（埼玉県）
② 企画会議 2～3 回

③ 経営報告例会もしくはセミナー2回
④ 企業訪問研修
⑤ 地域行事・文化行事実施
⑥ 女性部総会

【地球環境部会】
地球環境部会を担当させていただきまして、四年目になります。今期も中同協の地球環境委員会に参加拝聴して、同友エコ提案は元より、会員増強と地球環境部会を数回開催して、環境への取り組みと、省エネ対策、定期例会に主催参加と加えまして、本会への会員増強を図って参ります。

※巻末資料
・2017年度　活動の足跡
・同友会の理念
・福井県中小企業家同友会規約
・福井県中小企業家同友会慶弔規定
・福井県中小企業家同友会役員選考規定
・福井県中小企業家同友会 組織図
・福井県中小企業振興条例
・中小企業憲章（平成22年6月に閣議決定）
・坂井市中小企業振興基本条例
・越前市中小企業振興基本条例

※裏表紙内側
・同友会三つの目的

※別紙
・第２号、第５号議案
・中期ビジョン（2017～2019年度）